

2022年度(令和4年度)学校評価自己評価表

神辺東中学校区	校番 76	福山市立御野小学校
最終更新日	2023年(令和5年)2月1日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	問題解決能力・コミュニケーション力・意思決定力
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、各校の重点目標への取組が着実に進められ、子どもたちの主体的な学びの成果が現れている。 教職員のやりがいや充実感の高さは、教育の基盤となる。 小中間で学力の伸び調査などにみられる課題を共有し、ICTを活用した授業改善等により基礎学力の定着を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を持ち、学校生活全般に渡り、主体的にがんばることができ、全体的な規範意識は高い。 授業では協働的な学習に積極的に取り組んでいるが、意見の練り合いや合意形成、表現のスキル等が十分でない。また、基礎学力の定着にも課題がある。 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、「なりたい自分」を目指し、自分の人生を選択し、自分らしく表現することができる。
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 子どもがワクワク感をもって課題を探究し、自分らしく表現する子どもの学びの創造 「あいさつ」の大切さを実感し、家族や友達、教師や地域に向けて実践する力の育成 主体的な学びに係る「ふるさと学習」・SDGS・ICT活用による改善 「家庭学習」における子ども主体の学びの推進のための発達段階に応じた取組の明確化と実践 「体力向上」に向けた子ども主体の取組の推進

III 自校

ミッション
「地域の宝」となる子どもを育成する。 ○児童の学びの場を充実させ、児童に学力をつける。 ○児童に当たり前のことが当たり前でできる自立の力をつける。 ○地域と進んで関わり、地域から学び、地域のために役立ちたいと思う気持ちを育てる。
学校教育目標
自ら学び、人間性豊かで、たくましく生きる子どもの育成
現状
<児童生徒> ○素直でまじめな生活態度で、決められたことは守ろうとする児童が多い。「御野しぐさ」として全校でよい行いをしようとする意欲がある。あいさつや掃除がコロナ禍の中で不十分になっている。自分の考えを持つことはできるが、全体へ向けて説明したり表現したりする力には課題がある。 ○全国学力・学習状況調査等から基礎学力にも活用力にも課題が見える。既習の知識や技能を活用したり、自分の考えを友達の考えと関連付けたり比較したりして深めていく児童が固定化している。
<授業> ○子ども主体の学びづくりについて、社会科・図画工作科を中心に授業づくりを研究してきた。児童自らが主体となって、友達の意見を聞き、深め合うことが全教室で展開されるよう、付けたい力やその指導内容、展開等子ども主体になる授業づくりを進めていく必要がある。 ○ICT 機器を活用した授業に積極的に取り組んだ結果、児童のスキルは向上した。情報モラルの学習を継続していくとともに、活用場面を適切に位置付けてすべての子どもが「もっとわかりたい」という授業改善を進める必要がある。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	<input checked="" type="checkbox"/> 問題解決力 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力 <input checked="" type="checkbox"/> 意思決定力
めざす子ども像	<input checked="" type="checkbox"/> 自分で、みんなで、取り組む中で、課題に向けて調べたり、他教科と関連付けたり解決方法を考えたりと、主体的に解決の形を考えることができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 自分の夢や目標を語り、他者と進んで関わり、互いのよさを認め合うことができる。 ・様々な表現方法で、自分のことや考えを伝えることができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 「やってみよう」とする意欲をもち、自分の行動を自分で決定することができる。
研究	テーマ 「ワクワク感をもって、課題を探究し、自分らしく表現する児童の学びの創造」～児童が進んで考え、表現する主体的な学びづくり～ 内容等 児童が考えたい、できるようになりたい、わかりたいとチャレンジしたくなる授業展開・単元構成の工夫 多様な方法で学習する学習環境の整備と情報活用能力の育成 児童の学びを支える教職員の役割
めざす授業の姿	児童がもっとやってみたい、できるようになりたい、分かりたいと思う授業 ○児童全員が授業に進んで参加し、自分で考え、判断する授業(主体的) ○自己・他者・教材内容と対話し、既習や経験をつないで解決する授業(対話的) ○教科の「見方・考え方」を働かせて理解を深める授業(深い学び)

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	□達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	□達成評価	総合評価	改善方策		
1	知 児童自ら課題を見つけ解決する楽しさを味わう、子ども主体の学びづくりを進める。	★	新規	<ul style="list-style-type: none"> 子どもがチャレンジできる場、主体的に探究する授業をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が考えたい、できるようになり、わかりたいとチャレンジしたくなる授業展開・単元構成を工夫し、授業構造の転換を図る。 基礎学力の実態を把握し、個に応じた多様な方法(ICT活用等)で学習する環境の整備を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な学習の時間、生活科が楽しい」「授業で考えることが楽しい」児童80%以上 国語科算数科の学期末テスト40点未満の児童を20%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な学習の時間、生活科が楽しい」「授業で考えることが楽しい」児童91% 国語科算数科の学期末テスト40点未満の児童2% 学習課題や自分の取組テーマを児童が設定する授業展開を行った。 学習方法や学習内容を児童に選ばせ自由進度学習を取り入れた。 ICTを活用して視覚的に理解できる環境整備を行った。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 資料や問題のあわせ方を工夫し、児童が考えたいと思える必然的な課題を設定する。 児童の「考えたい。」「チャレンジしたい。」思いを取り上げ、児童と共に単元構成をする。 学力の伸びを把握する調査やCRTの結果分析を行うことで個の実態を把握し、個に応じた手立てと支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な学習の時間、生活科が楽しい」「授業で考えることが楽しい」児童93% 国語科算数科の学期末テスト40点未満の児童2% 児童と学習課題や学習のゴールを設定し、授業展開を行った。 日常生活や学校生活の場を問題にすることで、必然性のある課題を設定した。 学力の伸びを把握する調査やCRTの結果分析を行うことで、個の実態を把握し、ICTを活用して個に応じた課題を配布した。また、児童と課題を共有し、共に手立てを考え、支援を行った。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 児童発の課題設定を大切に、「考えたい。」「チャレンジしたい。」思いを取り上げ、児童と共にゴールを明確にした単元構成を工夫する。 「書く力」「生活に活かす力」を意識した、授業改善ポイントを全職員で共有し、児童が何につまずくのか、学びの過程を大切に授業デザインシートを活用する。 児童が自分に合った学び方を自分で選択できるよう個に応じた手立てを定期的に見直し、効果的な支援を行う。
				<ul style="list-style-type: none"> 自己表現力を向上する。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な方法で自分の考えや思いを表現する活動や場を設定する。(PBL学習等) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育活動のあらゆる場面で書く・話す活動を位置づけ、学期に1回以上他学年や地域へ表現活動を発信 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で交流する場面が少なく、書く話す活動は位置づけたが、他学年や地域に発信することに至らない学年が多かった。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間や国語科等で、児童が自ら「書きたい。」「伝えたい。」と思える表現の場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習発表会、国語科、生活科、総合的な学習の時間を通して、保護者、地域、他学年に表現する活動を発信することが全学年1回以上できた。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 「伝えたい。」と思える相手意識・目的意識をもたせ、学校教育活動のあらゆる場面で主体的に書く話す場を設定する。

			<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりを大切にしたい学級経営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 個の実態や状況に応じた登校方法や学習活動を実践し、保護者連携を丁寧に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校児童の減少と出席数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の欠席状況は、全学級平均は2.9%だった。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 新規不登校児童はいないが、欠席日数が増えている児童もみられる。休日明け等に休みがちな児童に、丁寧な対応と保護者への連携を密にして不安を減らしていく。 また、「学校が楽しい」と思えるような児童会活動や一人一人が大切にされていると児童が感じられる学級活動等の取組を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の欠席状況は、全学級平均は4.7%だった。 「一人ひとりを大切にしたい学級経営を行っている」という教職員の意識は、4段階評価の3.4だった。 オアシスルームを設置し、多様な児童の対応に個別に応じたことで、不登校児童の減少と出席率は昨年度に比べ上昇した。 多くの場面で、友達の良いところを紹介しあったり、学習や生活上の困っていることを個別に聞いたりする機会を取り入れ、仲間と関わる集団遊び等工夫した。 児童主体の児童会活動、異学年交流遊びを取り入れた。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの良さを引き出し、認め合える学級・学校となるよう、様々な角度から子どもを多面的にとらえ、一人一人を尊重した集団づくりを大切にしている。 子ども同士がつながり合い、自己肯定感を高める行事活動を工夫することで、登校への不安を減らし、楽しみを想像できるような取組みを継続していく。
1	徳 自分も他人も大切にすることを育てる。	★ 新規	<ul style="list-style-type: none"> 地域に学び、地域を大切にしたい学校づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した神辺ふるさと学習を各教科で計画・実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 「御野の人・もの・ことを大切にしたいと思う。」肯定的な評価90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「御野の人・もの・ことを大切にしたいと思う。」肯定的な評価89.6%だった。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の学習内容に応じて地域の方との関わりやボランティア等でお世話になっていることを意識することで、地域全体に支えられている実感を持てるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「御野の人・もの・ことを大切にしたいと思う。」肯定的な評価95.3%だった。 学校及び地域の行事が徐々に再開できるようになったことで、地域の方々との交流の機会も増えたことによって、児童も地域の方々との関わりに感謝する場面が増えた。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 再開しつつある地域の行事と関連性のある学習活動との連携を図り、御野学区のよさを活かした教育課程(カリキュラムマップ)を見直す。 児童が実際に体験したりゲストティーチャーの話の聴いたりすることで、他にない地域の特徴への理解や愛着を深めていく。

	<p>☐</p> <p>子ども主体の体づくりを進める。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 男女ともに県平均値かつ全国平均値を上回る項目を増やす。 男女ともに週に3日以上運動をする児童の割合を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業の導入に、全校各児童が課題に応じた目標を立て、児童一人ひとりの課題の項目を上げるための運動の実施 月に2回程度、異学年で外遊びの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育の時間や外遊びで体を動かすことが好きな児童を90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 体育の時間や外遊びで体を動かすことが好きな児童を82%だった。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 準備運動を工夫し、体育の時間や家でも体づくりができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育の時間や外遊びで体を動かすことが好きな児童を88%だった。 朝会で、異学年の外遊びを月2回実施することで、楽しく体づくりができた。 	4	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態を把握し、課題に応じた準備運動を工夫する。 児童相互の関わりを大切にされた授業中の運動量の確保をする。 競い合わせや記録への挑戦などを取り入れ、一人ひとりの状況に応じた目標を持たせることで、多くの達成感を味わわせる。 朝会や休憩時間に異学年遊びや「体づくりイベント」を企画したりすることで、子ども達が進んで楽しく体づくりをする場を設定していく。
1	小中連携を含む学校における組織マネジメントの向上を図る。	新規	<ul style="list-style-type: none"> 中学校区の課題に小中で連携し取組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 小中の連携を密にし、課題を共有し、改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校区推進協議会で課題に即した4部会を年3回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校区推進協議会の各部の部会を1回持つことができた。部会の前にはリーダー会を持ち、各部の課題を明確にすることができた。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 各部で挙げた課題について、校区でどのように取組んでいくか、リーダー会を設定し、具体的な方策を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 部会の前にはリーダー会を持ち、部会の内容を決定した。部会では、各校の実践の交流をし、次年度に向けての方向性を決めた。「全国学力学習状況調査」の結果から校区の課題を分析し、児童・生徒の交流をしていくという方針を決定することができた。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 各部で統一して取組む内容について明確にする。小中一貫推進担当者が年間計画を立て、各部のリーダーが見通しを持って動けるようにする。

1	小中連携を含む学校における組織マネジメントの向上を図る。		新規	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌の仕事内容を精選するとともに、見通しを持って仕事ができる仕組みを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年会の時間と内容を主任主事が精選し、各部員が見通しを持って運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「職員同士連携をとって仕事を進めている。」肯定的評価90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「教職員同士連携をとって仕事を進めている」と肯定的評価をした職員は100%であった。各部の主任・主事が見通しを持った計画を立てたことで、各部員が主体的に働くことができた。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌の仕事内容の精選が必要である。また、学年会の時間確保のため、毎週火曜日に学年会を固定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「教職員同士連携をとって仕事を進めている」と肯定的評価をした職員は95%で、目標を達成した。分掌部会や学年会を固定化することで、各主任・主事が計画的に部や学年の運営をすることができた。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の行事等の反省をもとに各部で次年度への見通しを持っておく。各分掌で仕事内容のスリム化を図る。
				<ul style="list-style-type: none"> 仕事に対する満足感や充実感を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の意欲を重視した取組や研修を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「仕事にやりがいを感じている教職員」を90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 職員アンケート「仕事にやりがいがある」において肯定的評価は81%だった。 	2	2	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き業務改善を進め、企画書の交流等により、教職員の主体的な研修を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員アンケート「仕事にやりがいがある」において肯定的評価は90%で、目標を達成した。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の職員の良さが発揮できるよう、個々の教員の主体的な取組の充実を図り、学年や分掌部会の連携をより深める。
1	教職員が生き生きと働ける職場をつくる。	★	新規	<ul style="list-style-type: none"> 時間と質を意識した業務を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定時退校日を確実に実施し、自己管理システムを作り、超過勤務の縮減を意識する。 	<ul style="list-style-type: none"> 在校時間外勤務、年間360時間以内 	<ul style="list-style-type: none"> 定時退校日の実施率50%、在校時間外勤務が月30時間を超えた職員は72%だった。 	2	2	<ul style="list-style-type: none"> 会議の内容を共有フォルダで全職員が把握できるようにすると共に、個々が自己管理できるシステムを習慣づける。 	<ul style="list-style-type: none"> 定時退校日の実施率51.7%、在校時間外勤務が月30時間を超えた職員は72.7%だった。改善の必要がある。 	3	2	3	<ul style="list-style-type: none"> 見通しを持った計画的な業務の運営と行事内容の精選により業務改善を進め、自己管理意識を高め効率的に仕事を進めていく。